



ねこだけ通信

南郷谷リハビリテーションクリニック便り

令和6年 12月発行 第22号

過酷な境遇にある

人々を慮る心

心療内科医である桑山紀彦先生とは9年前の熊本地震で避難所となった南阿蘇中学校の体育館で出会った。

震災発生後、私は毎朝体育館に足を運んだ。体育館は着のみ着のまままで逃れた人々で溢れていた。日頃通院されている患者さんやその家族、被災した病院職員の姿があった。みな体育館の冷たい板張りの上に段ボールを敷き、目隠しの衝立も無い場所で雑魚寝を強いられていた。

私は日赤から提供されたテントをお借りして病院職員や薬局の方々と、患者さんに薬を届ける取り組みを始めた。数日後体育館のロビーを通りがかかると、小学生や保育園の子供たちの輪があった。その中心には一人の男性がいて、子供たちは画用紙にクレヨンで絵を描いていた。「一体この人は何をしているのだろう」と思った。それが桑山紀彦先生だった。被災した子供たちに絵を描いてもらい、辛い記憶と向き合うことで心のケアをされていたと、後で知った。

桑山先生は、2003年からパレスチナ・ガザ地区の子供たちの支援を続けられている。現地事務所を開設され、ジャーナリストを目指す現地スタッフのモハマッドが、ガザ地区の人々がおかれた過酷な状況を、日本や世界に伝えていく。

桑山先生はパレスチナ・ガザ地区だけではなく、ロシアの侵攻が

続くウクライナ、政情不安定な東ティモールなど災害と紛争の続く地域の人道支援、医療支援を続けられている。活動の状況を日本に住む私たちに伝える活動が「地球のステージ」だ。

「ステージ」は、活動の様子を撮影した映像がスクリーンに映し出され、桑山先生のギターと歌、語りで構成されている。

12月21日(土)熊本県立大学で開催された「地球のステージ」に家族で参加した。4か月ぶりにお会いした先生は東ティモールから戻られたばかりだった。



県立大学にて桑山先生と

2025年の9月に念願の「地球のステージ」が高森中学校で開催されることになった。中学生だけではなく保護者や一般の方にも広くお知らせして、参加して頂きたい。詳しくはスマホで「桑山紀彦」を検索されたい。

《今月の一冊》

『銀の匙』中勘助著 角川文庫



「ご存じの方も多しとは思いますが、最近読み直してみても、改めて感動したのでご紹介する。文庫本で200ページほどの短編で、中勘助の幼少期から青年期の自伝的小説と言われている。

「それはゴルク質の木で、板の合わせめに牡丹の花の模様をついた絵紙をはつてあるが、もとは舶来の粉煙草でもはいつたものらしい。なにもとりたてて美しいのではないけれど、木の色合いがくすんで手ざわりの柔らかいこと、ふたをするときはぼんととぶくらした音のすることなどのために今でもお気に入りのもののひとつになっている」本の冒頭部分、銀の匙を納めてある箱の描写で、表現の繊細さと記憶の鮮やかさに驚かされる。全国屈指の進学校である兵庫県の灘高校ではかつて国語の授業で、『銀の匙』一冊を3年間かけて読み解く授業が行われたという。黒岩神奈川県知事もその授業を受けたと話されていた。

見上げて「らん

夜の星を

冬空を見上げると、大気は澄んでいて星々が美しく輝いている。この時期は日暮れと共に東の空に「冬の星座の王様」オリオン座が登り始める。和名で鼓星(つづみぼし)と呼ばれ、見つけやすい形をしている。その周囲を眺めると、ひと際明るい星が6つ見つかる筈だ。これが「冬のダイヤモンド」である。青白い光を放つシリウスを起点に反時計回りに、リゲル、アルデバラン、カペラ、ポルクス、プロキオンという名の星々と憶えた。



冬のダイヤモンド

「見上げてごらん、夜の星を」である。この宇宙に生を受けた奇跡を思えば、日頃の人間関係の悩みなど、どうでもよくなる。

院長 拝

整

電子化に伴い、部署の方と紙の整理をしたのが良い思い出です。箱にたくさん積みみました。

『甲島』



熱

私は、高熱がよく出る、夏は、暑くて熱波に襲われた。でも今年は、熱中できることを見つけた。

『R』



変

今年は、4月に家が建ち、5月に当院に配属となり、変化の多い年だったから

『つくまる』



学

4月から長男が新1年生となり、学校で勉強等を頑張っている姿を見て、成長を感じたから。

『坂田』



努

目標の実現のため皆さんと力を尽くし新しいことに励むことで、違う意識をすることができたから。

『10ちゃん』



南郷谷リハビリ

2024年の

漢字



前

知識・技術面において全うできた一年であったため。

『オバタ ケイ』



耐

今年は、この一字しか思い浮かびませんでした。

『シミズ』



疲

何かと疲れた一年でした。

『ピーナッツ』



覚

新しい環境にきて、日々覚えることがたくさんあったから。

『まよひまよひ』



戦

色々な事と戦い続けた一年だったから。

『エムエムエム』



変

外来診療や職員の異動等に伴う人員体制の変更、異常な気候変動、そして私自身の心境の変化が著しい年であったから。

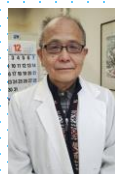
『モンサワー』



耐

病院では薬がない、注射が不足の状況が長く続いている。武器の無い軍隊と同じ、耐えるしかない

『森のくまさん』



川

8月に家族で球磨川のラフティングを体験しました。来年は、ウガンダで川下りをするぞ！

『茗ばかり院長』

